

Kansai Economic Insight Monthly

2017/11/24

Vol.55 October/November

・ APIR “ Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・ レポート公開時期は毎月第 4 週火曜日を予定しています。

・ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰(各 APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の 2 府 4 県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドと CI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	9
中国景気モニター	10
主要月次統計	13
Release Calendar	14

要旨

-景気は足下やや横ばいだが、先行きは緩やかな改善の見込み*-

- ✓ 9月の鉱工業生産指数は2カ月ぶりに前月から低下した。7-9月期は2四半期ぶりのマイナス。近畿経産局は「生産は横ばい傾向で推移している」と前月から据え置いた。
- ✓ 10月の貿易収支は9カ月連続の黒字だが、黒字幅は前年同月と比べて3カ月ぶりに縮小した。輸出は前月に続き、遊戯用が増加し、9カ月連続のプラス。輸入はたばこ・医薬品等が増加し、8カ月連続のプラス。
- ✓ 10月の消費者態度指数は4カ月ぶり、景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月連続の改善。株価上昇や好調なインバウンド消費が上昇に寄与した。先行き判断DIは、株高を受けた年末商戦への期待などから大幅に上昇した。
- ✓ 8月の関西2府4県の現金給与総額は6カ月連続の前年比増加。「関西コア」賃金指数も4カ月連続の同改善。賃金は着実に伸びている。
- ✓ 9月の大型小売店販売額は2カ月連続の前年比プラス。百貨店は、秋冬物衣料が伸び、化粧品と宝飾品は依然好調。スーパーは、牛肉と鍋物関連商品を中心に食料品が堅調であった。
- ✓ 9月の新設住宅着工戸数は2カ月ぶりの前年比減少。利用関係別にみると、持家は7カ月連続の減少、貸家は3カ月ぶりの増加、分譲は3カ月ぶりの減少。
- ✓ 9月の有効求人倍率、新規求人倍率はともに前月比悪化。完全失業率も4カ月ぶりに悪化した。これまでの反動とみられ、雇用情勢は依然堅調である。
- ✓ 10月の公共工事請負金額は5カ月ぶりの前年比増加。季節調整値では4カ月連続の増加となった。
- ✓ 10月の関空を利用した訪日外客数は8カ月連続の前年比増加。また、7カ月連続で2桁増が続いており、好調である。
- ✓ 中国10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は3カ月ぶりに悪化したものの、15カ月連続で景気の分岐点である50を上回った。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦関西学院大学教授)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。
関西全体のCI、試作CLIの推移は2ページを参照。

【関西経済のトレンド】

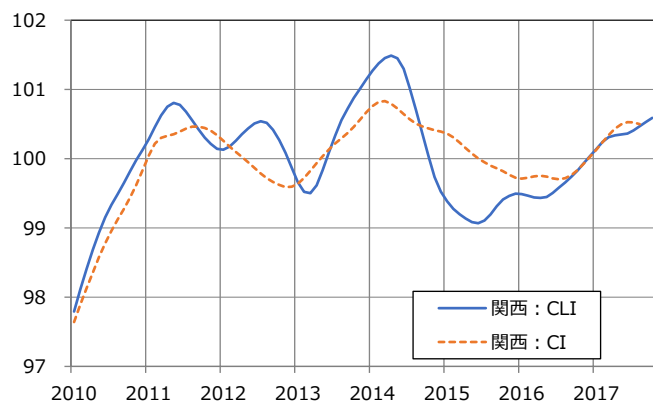
	2016年			2017年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生産	↓	↑	↑	→	↑	↓	↑	↓	↑	↓	↑	↓	
貿易	↑	↑	↑	↓	↑	→	→	→	↓	→	↑	↑	↑
センチメント	↑	↑	↑	↓	→	↓	→	↑	↑	→	↓	→	↑
消費	↓	↓	↓	→	↓	↓	→	→	→	→	→	↑	
住宅	→	→	→	↑	→	→	↓	→	↓	→	→	→	
雇用	↑	↑	↑	→	↑	↑	↑	↑	↑	↑	→	↓	
公共工事	↓	↓	→	↓	↓	↓	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↑
中国	→	↑	↑	↑	↑	↑	→	→	→	→	→	→	→

(*トレンドの判断基準)

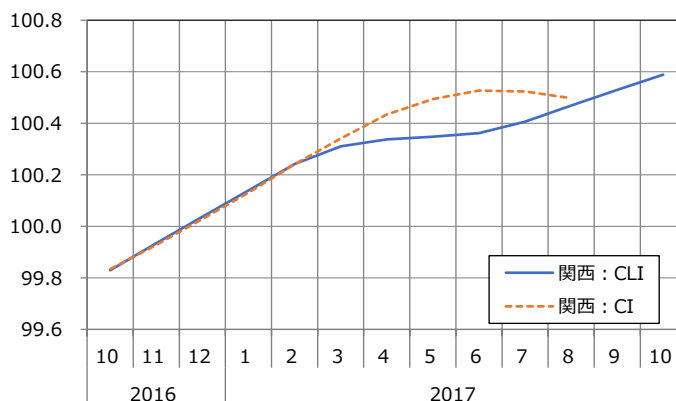
- ・ **生産**: 近畿経済産業局『近畿地域域工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**: 大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**: 内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**: 近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**: 国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**: 厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**: 西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2010年1月~2017年10月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2016年10月~2017年10月)



【鉱工業生産動向】

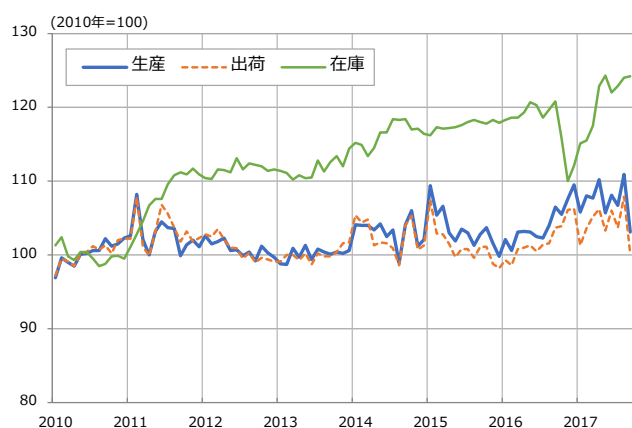
(1) 関西の生産動向

関西9月の鉱工業生産動向(速報値：季節調整済、2010年=100)によれば、生産は103.1で、前月比-7.0%と2カ月ぶりの低下。出荷は100.1で同-7.2%と2カ月ぶりの低下。在庫は124.2で同+0.2%と3カ月連続で上昇した。なお、生産と強い関係がある9月の実質輸出(季節調整済、2015年=100)は110.0で、同+1.0%と2カ月連続で上昇したが、10月は同-1.7%と3カ月ぶりに下落している。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比-19.3%、2カ月ぶり)、電気機械(同-6.5%、4カ月ぶり)、金属製品(同-10.0%、2カ月ぶり)、電子部品・デバイス(同-8.7%、2カ月ぶり)等が減産となった。一方、情報通信機械(同+9.3%、5カ月ぶり)、鉄鋼(同+6.5%、2カ月連続)、その他(同+2.8%、3カ月ぶり)が増産となった。

結果、7-9月期は前期比-1.0%となり、2四半期ぶりのマイナス(4-6月期同+0.8%)。近畿経済産業局は9月の基調判断を「総じてみれば、生産は横ばい傾向で推移している」と前月から据え置いた。

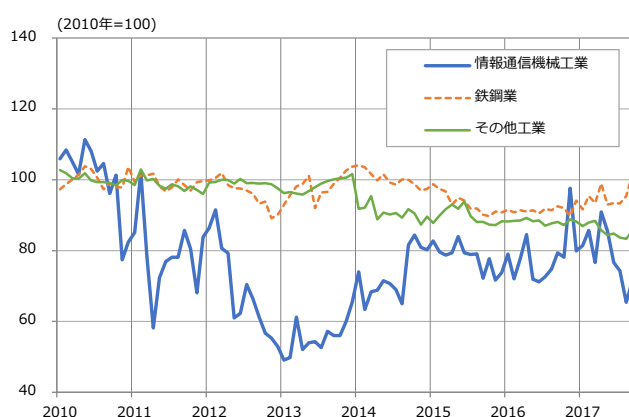
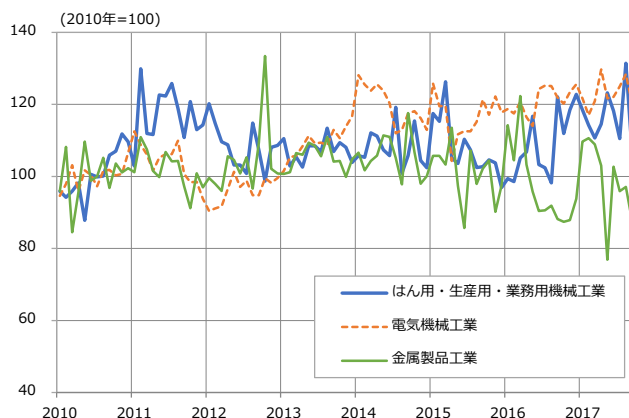
関西の鉱工業生産動向の推移(2010年1月~2017年9月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2010年1月~2017年9月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

(2) 全国の生産動向

全国9月の鉱工業指数(確報値：季節調整済、2010年=100)を見ると、生産は102.5となり前月比-1.0%と2カ月ぶりの低下。出荷は99.3で同-2.5%と2カ月ぶりの低下。在庫は107.3となり、同+0.0%の横ばいとなった。

業種別にみると、電子部品・デバイス(前月比-5.6%)、はん用・生産用・業務用機械(同-2.3%)、金属製品(同-6.6%)等は減産となった。一方、化学(同+5.8%)、食料品・たばこ(同+2.0%)、石油・石炭製品(同+4.4%)等が増産となった。

結果、7-9月期は前期比+0.4%と小幅上昇し、6四半期連続で拡大した。なお、製造工業生産予測調査によると、10月は前月比+4.7%の増産、11月は同-0.9%の減産が予測されている。

全国の鉱工業指数の推移(2010年1月～2017年9月)



(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」, 経済産業省「鉱工業指数」

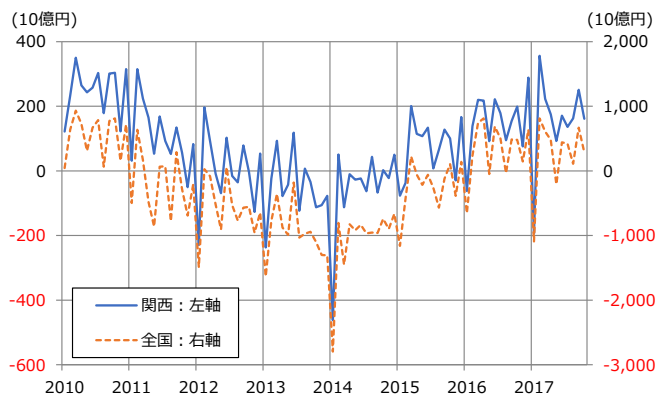
【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西 10 月の貿易収支は +1,614 億円と 9 カ月連続の黒字となった。黒字幅は、前年同月(+1,989 億円)と比べて-18.9%と3カ月ぶりに縮小した。

また、全国の貿易収支(速報値)は、+2,854 億円と 5 カ月連続の黒字となったが、前年同月比-40.7%縮小した。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月～2017年10月)



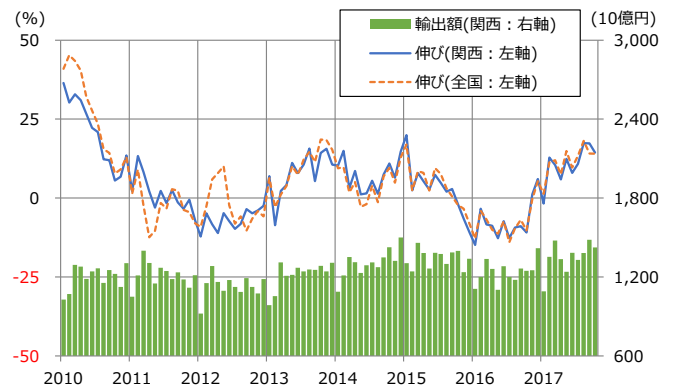
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(2) 輸出

関西 10 月の輸出額(速報値)は 1 兆 4,251 億円で前年同月比+14.4%と 9 カ月連続の増加。財別に見れば、遊戯用具、鉄鋼等が増加した。前月に続き、遊戯用具が輸出の伸びに寄与した。

全国 10 月の輸出額(速報値)は 6 兆 6,931 億円で、前年同月比+14.0%と 11 カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、半導体等製造装置、及び有機化合物等が増加した。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月～2017年10月)



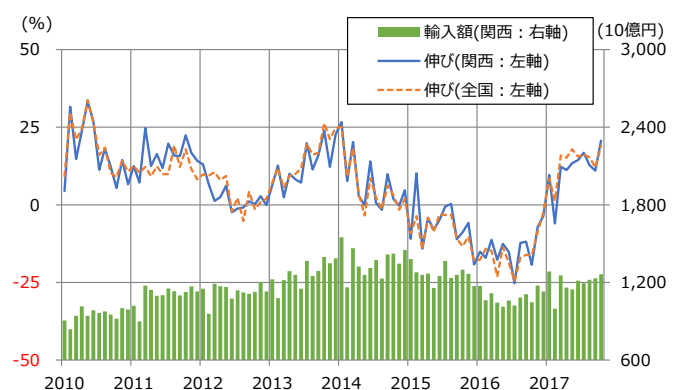
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

関西 10 月の輸入額(速報値)は 1 兆 2,637 億円、伸びは前年同月比+20.7%と 8 カ月連続の増加。財別に見れば、たばこ、医薬品等が増加した。

全国 10 月の輸入額(速報値)は 6 兆 4,077 億円で、前年同月比+18.9%と 10 カ月連続の増加。財別に見れば、原油、石油製品、及び石炭等が増加した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月～2017年10月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西 10 月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)貿易収支は+2,360 億円と 9 カ月連続の黒字となり、黒字幅は前年同月比+3.2%拡大した。輸出は 9 カ月連続の増加(同

+13.8%)。財別に見れば、鉄鋼、科学光学機器等が増加した。輸入は8カ月連続の増加(同+17.7%)。財別に見ると、衣類及び同附属品、がん具及び遊戯用具等が増加した。

うち、対中貿易収支は-235億円と8カ月連続の赤字となった(前年同月比-55.5%)。輸出は12カ月連続の増加(同+28.2%)。財別に見ると、半導体等電子部品、科学光学機器等が増加した。輸入は8カ月連続の増加(同+16.1%)。財別に見ると、衣類及び同附属品等が増加した。

対米貿易収支は+923億円の黒字となり、3カ月連続の増加(前年同月比+17.2%)。うち、輸出は6カ月連続の増加(同+21.8%)。財別に見れば、遊戯用具、有機化合物等が増加した。輸入は11カ月連続の増加(同+26.2%)。財別に見れば、医薬品、肉類および同調製品等が増加した。

対EU貿易収支は-239億円の赤字となった(前年同月差-319.6億円)。輸出は6カ月連続の増加(前年同月比+13.0%)。財別に見れば、遊戯用具、二輪自動車等が増加した。輸入は8カ月連続の増加(同+39.9%)。財別に見れば、たばこ、医薬品等が増加した。

【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

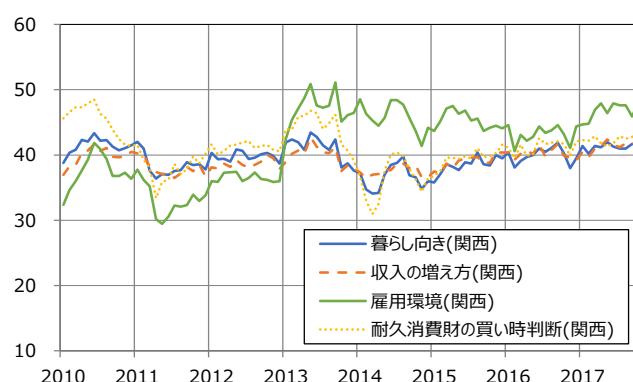
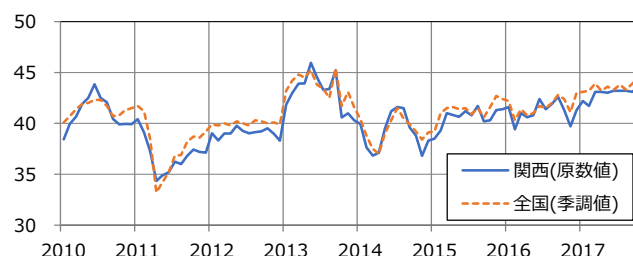
関西10月の消費者態度指数(原数値)は43.6と前月比+0.5ポイント上昇し、4カ月ぶりに改善した。全国(季節調整値)は同+0.6ポイント上昇し44.5となり、2カ月連続で改善し、2013年9月(45.4)以来の高水準であった。

関西の同指数構成項目を見ると、「雇用環境」は前月比+2.0ポイント(4カ月ぶり)、「耐久消費財の買い時判断」は同+0.2ポイント小幅上昇した(2カ月連続)。一方、「収入の増え方」「暮らし向き」は同横ばいであった。

また、全国の同指数は前月に続き、2カ月連続で4項目全てが改善した。項目別に見ると、「雇用環境」が前月比+0.9ポイント、「収入の増え方」が同+0.7ポイント、「暮らし向き」が同+0.5ポイント、「耐久消費財の買い時判断」が同+0.1ポイントそれぞれ上昇した。株価の連騰が続く中で、

資産効果によって消費者心理が改善したとみられる。内閣府(消費者心理の基調判断を「持ち直している」として、7カ月ぶりに上方修正した。

消費者態度指数の推移(2010年1月~2017年10月)



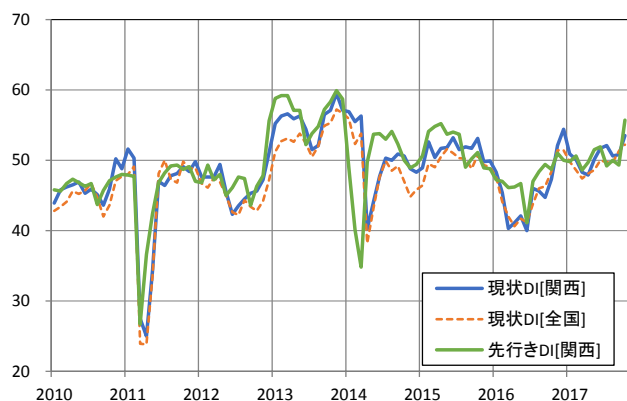
(出所) 内閣府「消費動向調査」

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西10月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は53.5と前月比+2.7ポイント上昇し、2カ月連続の改善となった。なお、景況感の良し悪しの分かれ目となる50を6カ月連続で上回っている。関西でも、2度の台風が週末と重なり、客足の減少が響いたものの、株価の上昇や中国の国慶節に伴いインバウンド消費が引き続き好調であることなどが上昇に寄与した。また、全国の同指数は52.2と同+0.9ポイント上昇し、2カ月連続の改善であった。

また、先行き判断DI(季節調整値)は、関西では55.7と前月比+6.4ポイントと大幅に上昇し、2カ月ぶりの改善。株高を受けた年末商戦の盛り上がりへの期待などが上昇に寄与したとみられる。全国は同+3.9ポイント上昇の54.9となり、こちらも2カ月ぶりに改善した。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月～2017年10月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費・住宅】

(1) 現金給与総額

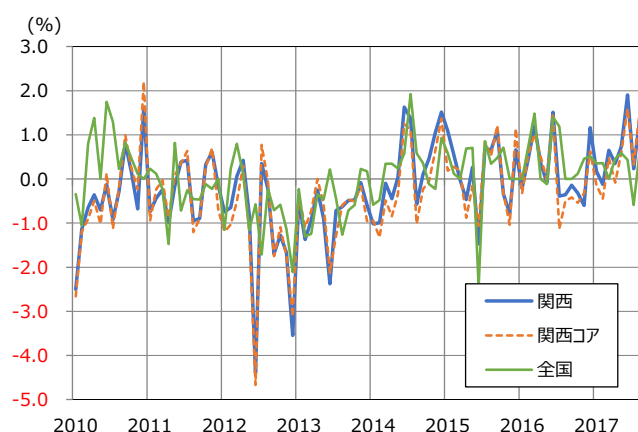
関西2府4県の8月の現金給与総額(APIR推計)は26万8,867円で前年同月比+1.4%となり、6カ月連続の増加。府県別では、京都府が同+3.4%(2カ月連続)、兵庫県、奈良県が同+2.8%(それぞれ2カ月ぶり、9カ月連続)、大阪府が同+0.5%(3カ月連続)、和歌山県が同+0.3%(3カ月ぶり)とそれぞれ増加した。一方、滋賀県は同-1.0%(2カ月連続)と減少した。

また、8月の京都・大阪・兵庫の加重平均をとった「関西コア」賃金指数(APIR推計)は同+1.6%増加し、4カ月連続の改善。賃金は着実に伸びている。

全国9月の現金給与総額(確報値)をみると、前年同月比+0.9%増加し、2カ月連続の改善。内訳をみると、所定内給与は同+0.7%と6カ月連続の増加。所定外給与は同+1.2%と3カ月連続の増加。特別給与は同+10.6%と2カ月連続の増加であった。

現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は、前年同月比-0.1%と4カ月連続の下落であった。所定内給与は緩やかな増加が続いているものの、エネルギー価格を主因とする物価上昇のため実質賃金が減少しており、消費増加は期待しづらい。

現金給与総額の推移(2010年1月～2017年9月)



(注)関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

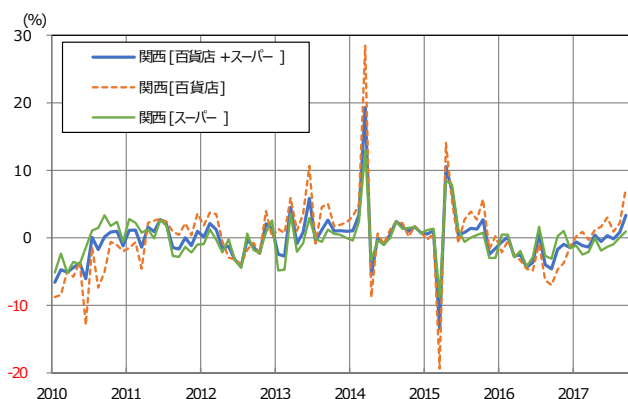
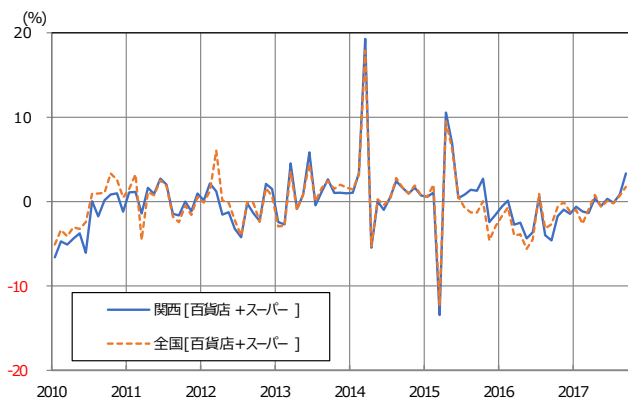
(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」

(2) 大型小売店販売額

関西9月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は2,938億円となり、前年同月比+3.4%と2カ月連続のプラス。百貨店は同+7.4%上昇し、6カ月連続のプラス。秋冬物衣料が順調に伸びた。また、化粧品、宝飾品等が国内需要に加え、インバウンド需要向けでも好調に推移している。なお、関西の百貨店免税売上(日銀大阪支店)によると、9月は前年同月比+129.7%(前月+103.4%)と11カ月連続で増加し、2015年10月(同+121.6%)を超える伸びとなった。なお、10月も同+128.1%と高い伸びが期待される。また、スーパーは同+0.9%と2カ月連続のプラス。食料品が堅調であり、中でも、牛肉と鍋物関連商品の動きが目立った。

全国9月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆4,968億円と、前年同月比+1.8%と2カ月連続のプラスであった。百貨店は同+2.1%と2カ月連続のプラス。また、スーパーは同+1.6%と4カ月連続のプラス。小売業販売額(季節調整値)の前月比後方3カ月移動平均を見ると、前月比+0.1%の上昇となった。これを受け、経済産業省は基調判断を「持ち直しの動きがみられる」と前月から据え置いた。

大型小売店販売額の推移(2010年1月~2017年9月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

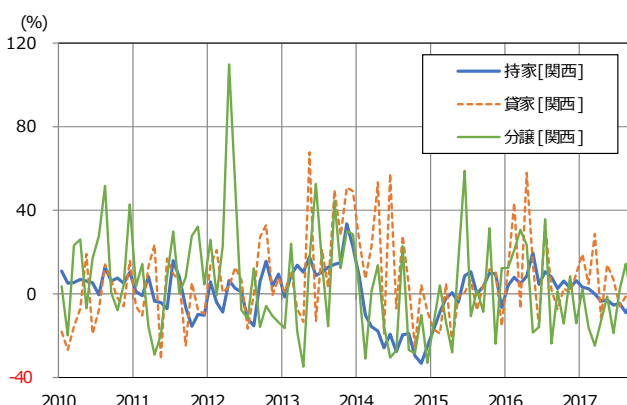
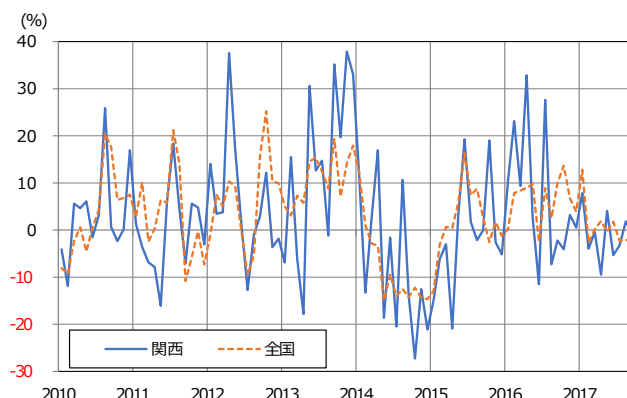
(3) 新設住宅着工の動向

関西9月の新設住宅着工戸数は11,354戸と前年同月比-0.7%となり、2カ月ぶりの減少となった。全国は83,128戸と同-2.9%と3カ月連続の減少。

関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、持家は3,052戸で前年同月比-4.4%と7カ月連続の減少。貸家は4,956戸で同+3.2%と3カ月ぶりの増加となった。一方、分譲は3,325戸と同-2.7%と3カ月ぶりの減少であった。全国をみると、持家、貸家、分譲すべての項目で前年実績を下回った。具体的には、持家は24,883戸で前年同月比-2.7%と4カ月連続の減少。貸家は37,521戸で同-2.3%とこちらも4カ月連続の減少。一方、分譲は20,202戸と同-5.3%減少し、4カ月ぶりのマイナスであった。アパートローンの貸出残高の減速を背景に、相続税の節税を目的とした建設が減少した。引き続き、今後の動向に注意する必要がある。

関西10月のマンション契約率は、74.5%(季節調整値：APIR推計)と、好調の指標となる70%を13カ月連続で上回り、引き続き好調を維持している。しかし、前月比-2.0%ポイントと、2カ月連続で低下した。一方、首都圏は65.4%(季節調整値：APIR推計)と同-0.2%ポイント低下し、5カ月連続で70%を下回った。施工費上昇による価格高騰で需要が低下し、首都圏では低調が続いている。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2017年9月)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

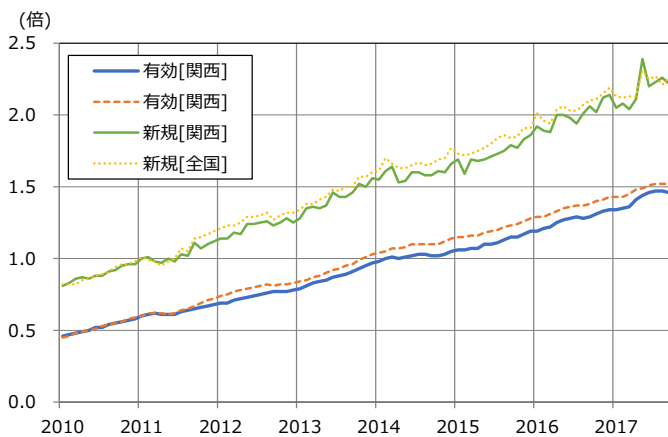
関西9月の有効求人倍率は、1.46倍で前月比-0.01ポイントと小幅低下し、2016年8月以来、13カ月ぶりの悪化となった。内訳をみると、有効求人数が同-0.2%と小幅ながらも2カ月連続で減少しており、企業の求人意欲が一服したとみられる。一方、有効求職者数は同+0.1%と8カ月ぶりに前月比小幅増加した。全国は1.52倍と2カ月連続で同横ば

いとなっており、依然として1974年2月(1.53倍)以来の高水準が続いている。

関西の有効求人倍率を府県別にみると、奈良県が前月比+0.04ポイント、滋賀県で同+0.02ポイントそれぞれ上昇した。一方、大阪府は同横ばい、兵庫県では同-0.02ポイント、京都府では同-0.04ポイント、和歌山県では同-0.06ポイント低下した。

関西9月の新規求人倍率は、2.22倍で前月比-0.04ポイントと3カ月ぶりの下落となった。新規求人数が同-3.3%減少したことによるものだが、前月(同+3.3%)の反動とみられる。依然労働需給は非常に引き締まった状態にあり、雇用情勢は堅調であると言えよう。また、全国は2.26倍で同+0.05ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善であった。

求人倍率の推移(2010年1月~2017年9月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2017年8-9月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
9月	1.52	1.46	1.32	1.50	1.59	1.30	1.37	1.24
8月	1.52	1.47	1.30	1.54	1.59	1.32	1.33	1.30

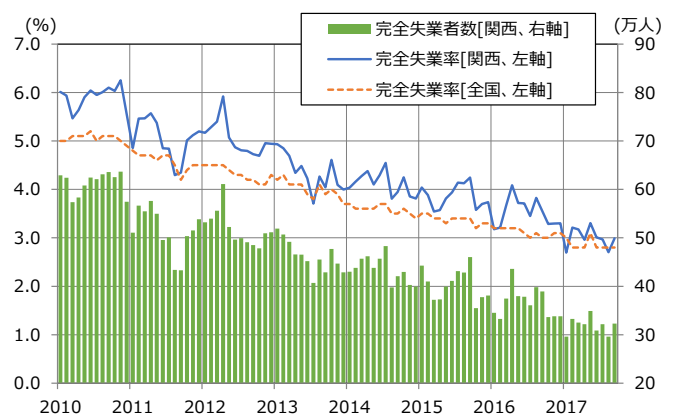
(2) 完全失業率の推移

関西9月の完全失業率(季節調整値: APIR 推計)は3.0%と前月比+0.3%ポイント上昇し、4カ月ぶりに悪化した。労働力人口と就業者数が共に減少しているものの、これまで増加が続いてきた反動であり、引き続き雇用は堅調とみられる。また、関西の完全失業者数(季節調整値: APIR 推計)は32.3万人で前月から+2.7万人増加し、2カ月ぶりに

悪化した。

全国9月の完全失業率(季節調整値)は2.8%と、3カ月連続の前月比横ばい。2017年に入り、7カ月間2.8%の失業率が記録されており、2%台後半の失業率が定着したとみられる。完全失業者数(季節調整値)は188万人で前月から+2万人小幅増加した。理由別にみると、「非自発的な離職」は同+3万人増加、「自発的な離職(自己都合)」が同+1万人増加、「新たに求職」は-3万人減少した。

完全失業率の推移(2010年1月~2017年9月)



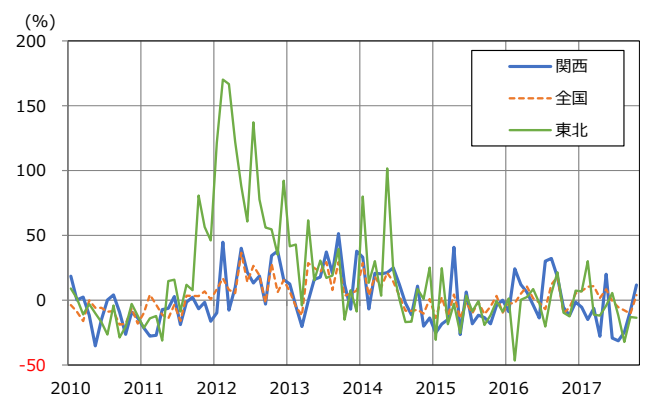
(出所) 総務省「労働力調査」

【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

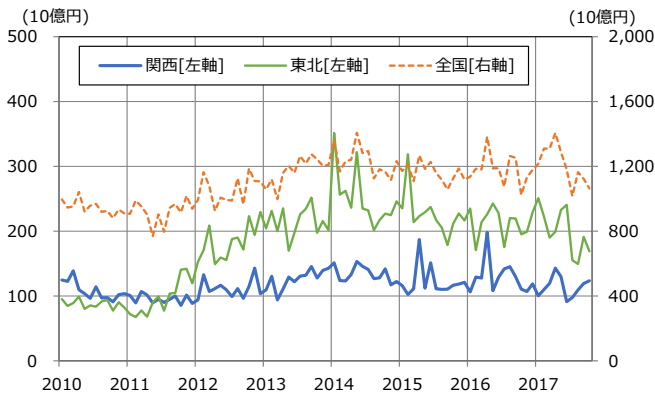
関西10月の公共工事請負金額は1,299億円と前年同月比+11.7%と5カ月ぶりの増加。全国は1兆1,712億円で同+3.9%と5カ月ぶりの増加。一方、東北は1,752億円で同-13.5%と減少し、4カ月連続のマイナスとなった。

公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010年1月~2017年10月)



(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証済十」

公共工事請負金額(実額)の推移(2010年1月~2017年10月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

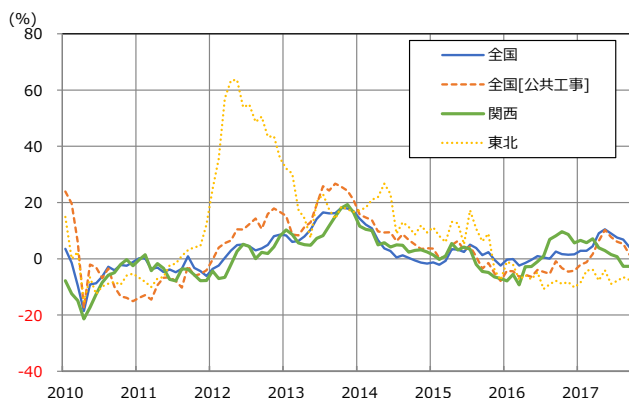
季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西は前月比+3.6%となり、4カ月連続の増加。全国は同-5.3%と2カ月連続の減少となり、補正予算の効果は既に剥落しているとみられる。

(2) 建設工事

関西9月の建設工事出来高は5,368億円となり、前年同月比-2.7%と2カ月連続の減少。東北については5,185億円となり、同-7.5%と23カ月連続の減少であった。

全国9月の建設工事出来高は4兆6,891億円となり、前年同月比+4.1%と16カ月連続の増加。うち、公共工事は1兆8,760億円で同+1.4%と、7カ月連続の増加。関西の建設工事は、全国と異なり減少している。

建設工事出来高の推移(2010年1月~2017年9月)



(注) 2016年4月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。

(出所)国土交通省「建設総統計」

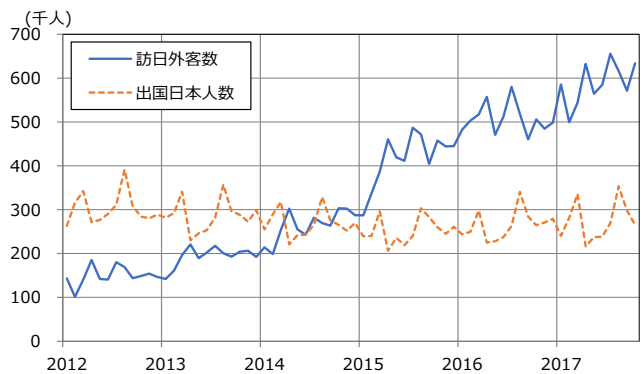
【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

10月の関空への訪日外客数は63万3,820人となり、前年同月比+25.3%と8カ月連続で増加しており、伸びも加速した。また、7カ月連続で2桁増が続いている。また、出国外国人数は64万5,080人と同+28.4%増加しており、外国人旅客総合数(出入国合計)は127万8,900人と同+26.8%増加した。

また、出国日本人数は26万5,510人で、前年同月比+0.3%と6カ月連続で増加した。訪日外客数、出国日本人数ともに増加が続いており、好調である。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月~2017年10月)



(出所)一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

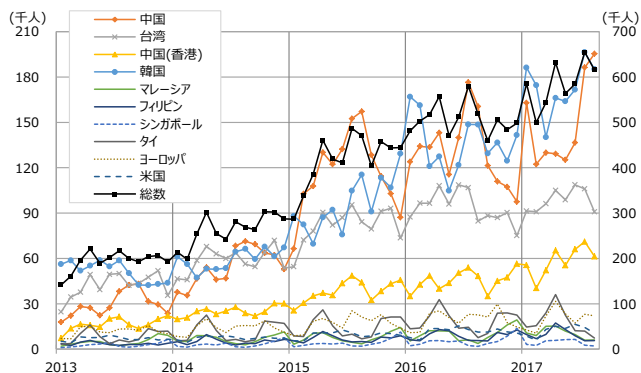
訪日外客数を地域別にみると、8月は中国(香港除く)からの入国者数が19万5,354人(前年同月比+21.7%)と最も多く、次いで、韓国が18万5,231人(同+24.7%)、台湾が9万9,911人(同+7.3%)、香港が6万1,397人(同+27.0%)であった。中国からの訪日客が2016年9月以来、12カ月ぶりに再び1位となった。また、関空-仁川(韓国)、関空-香港線の増便により、韓国、香港では2桁の伸びが続いている。

他のアジア各国からの入国者数は、タイが7,345人(同-3.8%)、マレーシアが6,097人(同+62.5%)、フィリピンが5,680人(同+0.5%)、シンガポールが2,142人(同+16.6%)であった。

他地域を見ると、ヨーロッパが2万2,088人(同-2.7%)、

米国が1万530人(同-6.6%)となっていた。

地域別訪日外客数(右軸：総数、左軸：各国、2017年8月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

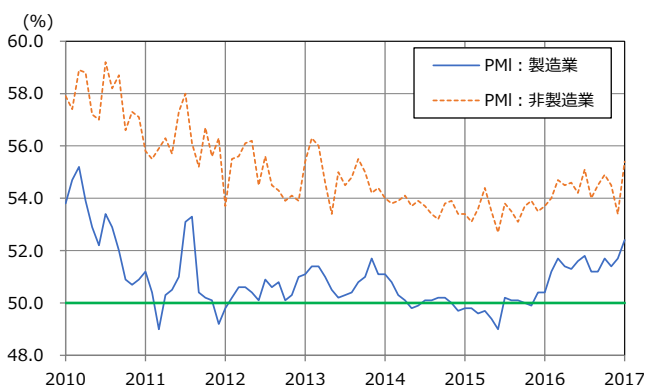
【中国景気モニター】

(1) センチメント

10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は51.6となり、15カ月連続で景気の分岐点である50を上回ったものの、前月から-0.8ポイント下落し、3カ月ぶりに悪化した。また、非製造業購買担当者景況指数は54.3となり、前月から-1.1ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化。

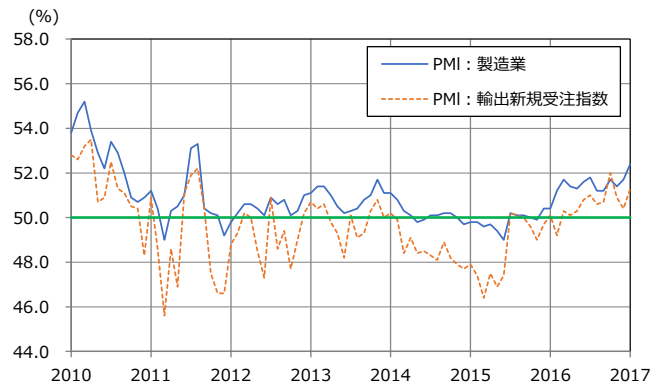
製造業 PMI のうち、生産指数は53.4となり、前月比-1.3ポイント下落し、3カ月ぶりの悪化。輸出新規受注指数は50.1となり、同-1.2ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化。雇用指数は49.0となり、同横ばいであった。

中国製造業・非製造業購買担当者景況指数(2017年10月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

中国製造業購買担当者景況指数(2017年10月まで)

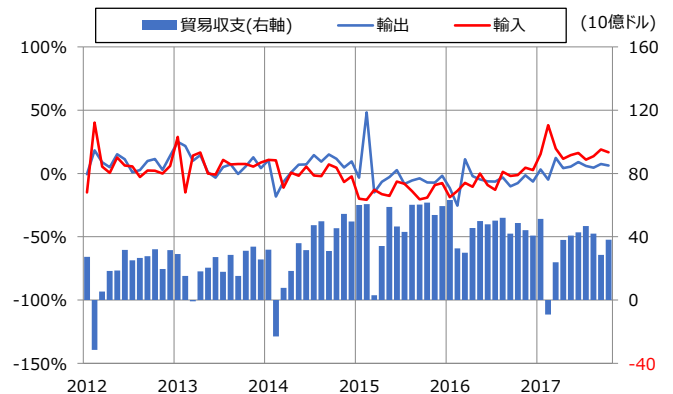


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

10月の貿易収支は+381.7億ドルとなった。黒字幅は前年同月より-105.9億ドル縮小し、15カ月連続でマイナスが続いている。うち、輸出額(速報値、ドル・ベース)は1,889.8億ドルとなり、同+6.2%増加し、8カ月連続のプラス。輸入額は1,508.1億ドルとなり、同+16.8%増加し、12カ月連続のプラス。

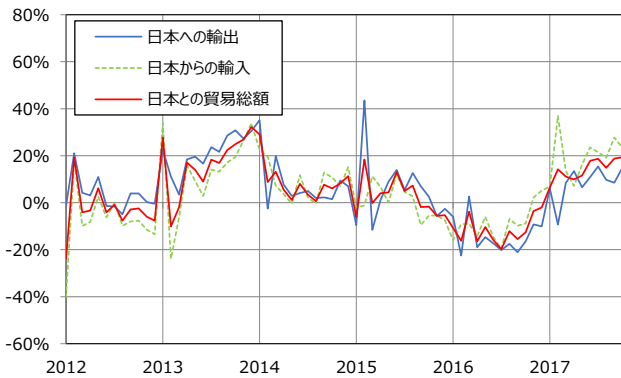
中国の貿易動向(前年同月比:ドル・ベース)(2017年10月まで)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

また、対日貿易収支は-20.0億ドルとなり、9カ月連続の赤字となった。対日輸出額は117.0億ドルとなり、前年同月比+5.7%と、8カ月連続の増加。一方、対日輸入額は137.0億ドルとなり、同+13.4%と15カ月連続で増加した。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同+15.0%と、8カ月連続の増加。また、対日輸入額は同+23.3%と、12カ月連続の増加であった。

日本との貿易 (前年同月比 : 円ベース) (2017年10月まで)



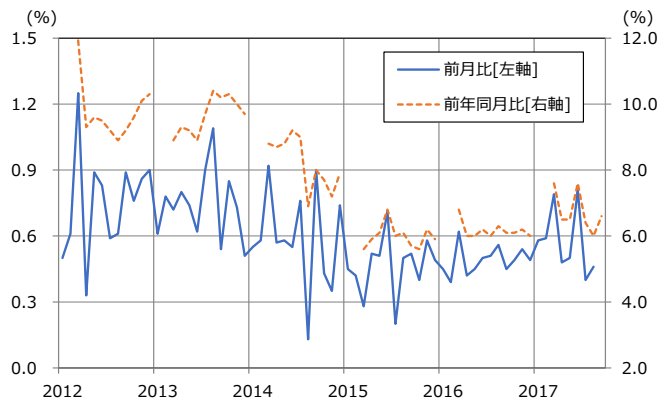
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

(3) 工業生産

10月の工業生産は前月比+0.5%となり、伸びは前月から-0.05%ポイント低下し、3カ月ぶりの減速。また、前年同月比では+6.2%となった。

産業別に見ると、医薬製造業(前年同月比+13.5%)、パソコン・通信設備製造業(同+12.8%)、専用設備製造業(同+12.3%)などが高い伸びを示す一方で、非金属鉱物製品製造業(同+2.3%)は比較的低調な伸びにとどまっており、有色金属圧延加工業(同-1.7%)、鉄鋼などの精錬・圧延加工業(同-1.3%)が減産していた。

工業生産指数(2017年10月まで)



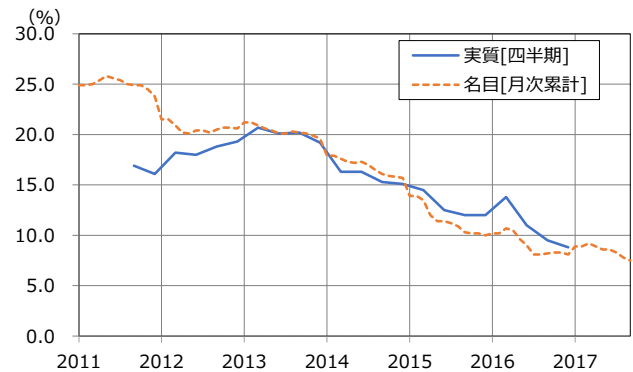
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-10月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同月比+7.3%となり、1-9月期(+7.5%)と比べて-0.2%低下し、4カ月連続で減速した。

産業別に見ると、第1次産業は前年同月比+13.1%、伸びは前月より+1.3%上昇し、7カ月ぶりのプラス。第2次産業は同+2.7%となり、前月から+0.1%上昇し、4カ月ぶりのプラス。一方、第3次産業は同+10.0%となり、前月から-0.5%下落し、3カ月連続のマイナスであった。

固定資産投資 (2017年10月まで) (累積伸び率)

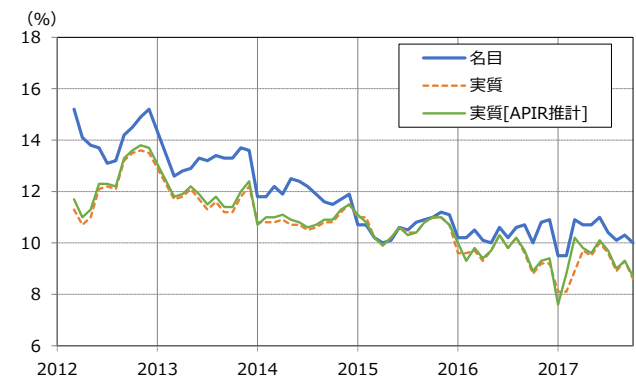


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

1-10月期の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+10.0%となり、伸びは前月(同+10.3%)より-0.3%ポイント下落した。

社会消費品小売総額成長率の推移 (2017年10月まで)



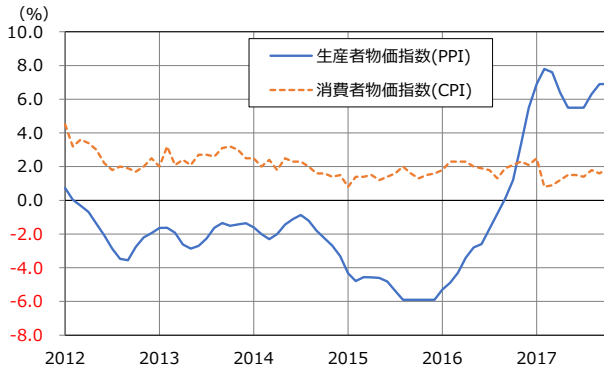
(注) APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

10月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+1.9%上昇し、前月より+0.3%ポイント上昇した。また、生産者物価指数(PPI)は同+6.9%となり、前月と同水準であった。

消費者物価指数と生産者物価指数の推移(2017年10月まで)

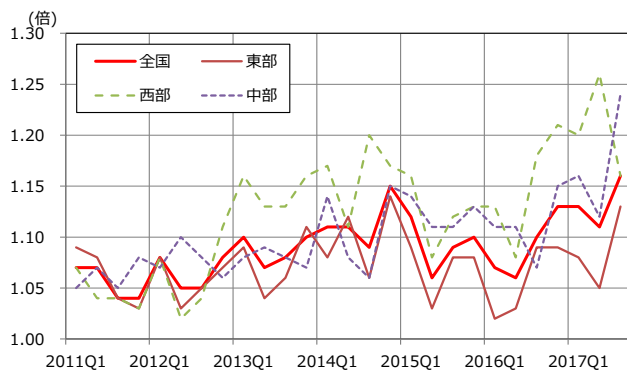


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 求人倍率

7-9 月期の有効求人倍率は 1.16 となり、4-6 月期より +0.05 ポイント上昇し、2 四半期ぶりのプラス。求人倍率を地域別に見ると、東部は 1.13 倍で同+0.08 ポイント上昇(3 四半期ぶり)、中部は 1.16 倍で同-0.10 ポイント下落(2 四半期ぶり)、西部は 1.24 倍で同+0.12 ポイント上昇(2 四半期ぶり)した。

有効求人倍率(2017年7-9月期まで)

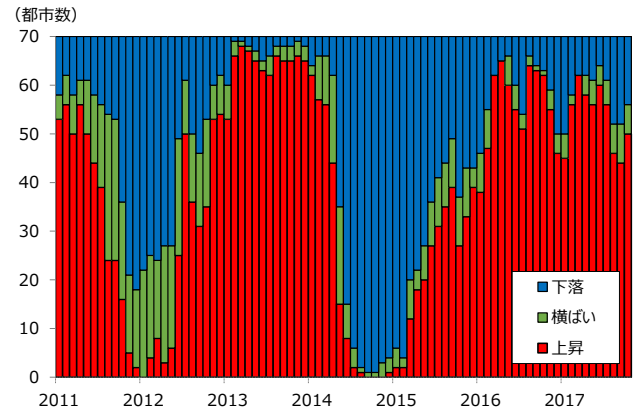


(出所)中国労働市場情報観測センター; CEIC データベース

(8) 不動産市場

10 月の不動産市場は、前月よりやや回復した。不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要 70 都市のうち、50 都市で前月から上昇した。前月(44 都市)と比較すると、上昇した都市数は 6 都市増加した。一方、14 都市で価格は前月(18 都市)から下落した。前月と比較すると、下落した都市数は 4 都市減少した。また、横ばいが 6 都市であった。

新築住宅価格の主要都市集計 (2017年10月まで)

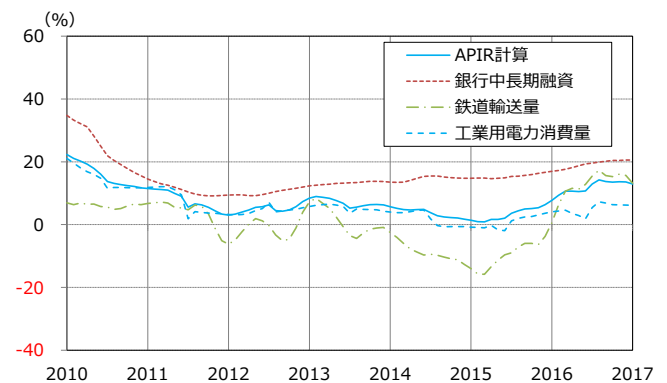


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(9) リコノミクス指数

9 月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比 +13.0%と前月から-0.6%ポイント下落した。内訳をみると、銀行中長期融資は同+20.6%となり、伸びは前月から +0.1%ポイント上昇し、21 カ月連続で加速した。鉄道輸送量は同+13.2%と、伸びは前月から-2.5%ポイント下落し、2 カ月連続のマイナス。工業用電力消費量は同+6.1%と、前月から-0.1%ポイント下落し、5 カ月連続のマイナス。

APIR 試算のリコノミクス指数とその内訳(2017年9月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 木下祐輔・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰
Tel. 06-6485-7694
E-mail. contact@apir.or.jp

Release Calendar for October/November/December

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
30-Oct 商業動態調査 (9月:速報値) 中国製造業 PMI (10月)	31-Oct 全国鉱工業生産指数 (9月:速報値) 全国貿易統計 (9月:確速) 新設住宅着工(9月) 求人倍率(9月) 完全失業率(9月)	1-Nov	2-Nov 消費動向調査(10月)	3-Nov
6-Nov	7-Nov 毎月勤労統計 (9月:速報値)	8-Nov 中国輸出入 (10月:速報値)	9-Nov 景気ウォッチャー調査 (10月)	10-Nov 近畿鉱工業生産指数 (9月速報) 近畿貿易統計 (8月確報) 近畿貿易統計 (9月確速)
13-Nov 商業動態調査 (9月:確報値)	14-Nov 中国固定資産投資 (10月) 中国工業生産(10月) 中国消費小売総額 (10月) 中国不動産市場 (10月)	15-Nov 全国鉱工業生産指数 (9月:確報値) マンション契約率 (10月) 公共工事前払保証額 統計(10月)	16-Nov	17-Nov 建設総合統計(9月)
20-Nov 全国貿易統計 (10月:速報) 出入国者数(10月) 近畿貿易統計 (10月:速報)	21-Nov	22-Nov 毎月勤労統計 (9月:確報値)	23-Nov 中国輸出入 (10月:確定値)	24-Nov 出入国管理統計(9月)
27-Nov 近畿鉱工業生産指数 (9月確報)	28-Nov 商業動態調査 (10月:速報値)	29-Nov 全国貿易統計 (10月:確速)	30-Nov 求人倍率(10月) 完全失業率(10月) 全国鉱工業生産指数 (10月:速報値) 新設住宅着工(10月)	1-Dec